

三 新たな段階へ 一九八九年以降 — 世代交代とモンゴルの民主化

一九八九年は、モンゴル科の歴史の中でひとつの転機になった。三八年間在職した小沢重男が定年退職し、後任に

温品藤三（助手、モンゴル言語学）が、採用された。学生定員の臨時増（一五名から一九名）にともなうポストの増加により、二木博史（助教、モンゴル史）が着任した。こうして、蓮見治雄と岡田和行と合わせ、はじめて常勤スタッフ四人体制が生まれ、それまでに比べると、よりバランスのとれたカリキュラム編成が可能になった。四人のスタッフは全員、留学生あるいは客員教授として、モンゴルに長期滞在した経験があり、モンゴルの研究者と直接的な学問上の交流があった。

客員教授としてロブサンジャブ博士（モンゴル国立大学教授、言語学・辞書編纂学）が、やはりこの年に着任した。モンゴルのペレストロイカは、一九八八年頃からはじまり、その中で、チンギスIIハーンや仏教の再評価と同様、モンゴル文字の復権が強く叫ばれた。キリル文字に代えて、伝統的なモンゴル文字をふたたび公用文字にしようという運動が推進され、小学校一年生からモンゴル文字が教えられはじめた。モンゴル文字擁護運動指導者の故リンチェン博士の高弟ロブサンジャブは、モンゴル文字復活運動の最高指導者だった。

同教授は、外語大の授業でもモンゴル文字の教育を重視し、原則的にキリル文字は使わず、新入生に対しても、モンゴル文字のみを教えた。当時、日本政府も民間の諸団体もモンゴル文字復活運動を支援し、教科書や辞書やワープロソフトの作成の面で資金援助を行ったが、その背景にはロブサンジャブの積極的な働きかけがあった。

一九八九年の十二月から本格化したモンゴルの民主化運動は、九〇年の三月に頂点に達し、一党独裁体制は崩壊した。脱社会主義化、市場経済化が急速に進められた。日本は、先進国のなかで、もともと積極的にモンゴルの民主化を支援した。その結果、人的交流がきわめてさかんになった。社会主義時代とは違い、モンゴルは誰でも自由に訪問できる「普通の国」になった。モンゴルやモンゴル語に対する社会的関心も高くなり、モンゴル関係の出版物の点数も増え、マスコミで取り上げられることも、多くなった。それまでと違い、専攻のモンゴル語を生かせる職場の数も

少しずつ増えてきた。そのため、モンゴルの専門家を養成するという、モンゴル科の役割もますます重要になってきた。

モンゴルへの旅行が自由化され、現地で直接、資料収集やフィールドワークをするのが可能になったことにより、研究領域も多様化してきた。学生の留学・研修の機会も増え、卒業生のなかには、モンゴルで学位を取得する者もでてきた。

政府間の文化交流協定の年次計画に基づいて、モンゴル政府が客員教授を任命する方式が放棄され、モンゴル研究室が独自に人選して直接招聘することが、可能になった。ツェデブ（モンゴル芸術大学教授、モンゴル作家同盟前議長）、オトゴンバートル（モンゴル科学アカデミー言語文学研究所研究員、書誌学）は、新しい方式で招聘された。

一九九六年にモンゴル国立大学と本学の間で交流協定が結ばれ、九七年度から短期留学制度による学生の交換がはじまった。

中国の内モンゴルからの私費留学生の増加も注目される。九〇年代に入ってから、研究生の数は増えつづけ、九八年度には四人の教官が、新入生の数を上回る二〇名以上の内モンゴルからの研究生を受け入れた。同年には、モンゴル国からの研究生も数名入学した。外国人研究生のなかで大学院に進学する者も増え、数の上では日本人を上回る現象があらわれはじめている。「外国人にモンゴル研究で学位を与える大学」としての東京外大の役割は今後ますます強まると予想される。

一九九六年に機構の改革にとまない、三講座制に移行すると、旧モンゴル語科の温品は言語・情報講座に、蓮見、岡田は総合文化講座に、二本は地域・国際講座にそれぞれ所属することになった。温品は現代モンゴル語を教え、蓮見は「モンゴル秘史」、フォークロア、遊牧文化論を講義した。岡田はモンゴル文学史、現代文学の授業を担当し、

二木はモンゴルの近現代史、文化史を講じた。

三、四年の「モンゴル語表現演習」のうち、一コマは、内モンゴル人（非常勤）が教えるようになり、地域的にバランスがとれるようになった。なお九四年度には、特別招聘教授として内モンゴル大学のゲレルト教授がモンゴル文学を短期間講義した。

モンゴル社会の急激な変化に対応して、授業科目にも変化が生じた。「モンゴル経済」の開講はその一例である。

九〇年代に入って、語学教育研究協議会から出版されたテキストには、ツエデブ『モンゴル語テキスト研究法試論』（一九九五年）、温品簾三『モンゴル語——発音事項中心の入門——』上巻（一九九五年）、オトゴンバートル『モンゴル木版本入門——「目録」編——』（一九九八年）などがある。